

令和7年度 管内学校支援アクションプラン 県教育庁宮古教育事務所		令和7年度「重点目標」 ○指導と評価の一体化を基盤とし資質・能力の育成を目指した学校改善・授業改善の充実 ○機能的な学校組織と意図的・計画的なカリキュラム・マネジメントの推進	
授業改善	「『自立した学習者』育成プロジェクト『授業改善4つの取組』と『育成を支える4つのポイント』」の視点		
	重点	取組内容	検証材料：県版児童生徒質問・学校質問
	主体的に学ぶ 「自立した学習者」 の育成	○「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実	<児童生徒質問> ・授業の内容はよくわかる。（各教科） ・授業では、課題の解決に向けて、粘り強く最後まで取り組んでいる。 ・先生は、授業やテストで間違えたところや理解していないところについてわかるまで教えてくれていると思う。 ・これまでの授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる。 ・学級の友達との話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。 ・学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思う。 ・家で自分で計画を立てて勉強をしている。 ・先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う。 <学校質問> ・家庭学習の取組として、児童生徒に家庭での学習方法等提示するなど工夫することで家庭学習が充実している。 ・学習評価の方針を児童生徒に示した上で、児童生徒の学習評価の結果を、その後の教員の指導改善や児童生徒の学習改善に生かしている。 ・学校生活の中で、児童生徒一人一人のよい点や可能性を見付け評価する（認めるなど）取組が充実している。 ・教員は、児童生徒一人一人に配布された端末等のICT機器を授業で有効に活用している。
		○「学習基盤としてのICT」の活用	
		○「自学自習力」を育む取組の充実	
○「指導と評価の一体化」の実現			
○「育成を支える4つのポイント」を生かした授業実践			
キャリア教育	「キャリア形成」の促進	○児童生徒の社会的資・能力の発達を支える取組	<児童生徒質問> ・自分には、よいところがあると思う。 ・学校のきまり〔規則〕を守っている。 ・人が困っているときには、進んで助けている。 ・いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。 ・将来の夢や目標を持っている。 <学校質問> ・将来つきたい仕事や夢について考えさせる指導に取り組んでいる。 ・学級全員で取り組んだり挑戦したりするテーマや課題を設定するなど、児童生徒の自主性が育まれる取組が行われ、全職員でその意義が共有されている。 ・キャリア教育やキャリアパスポートについて、その意義等について校内研究等で共有し、児童生徒の自主性が育まれる取組を行い児童生徒の個別支援につなげている。
学校改善	「自立した学習者」育成プロジェクト2つの共通実践 ○児童生徒の変容につながるPDCAサイクルの確立 ○「目指す児童生徒像」実現化を目指した校内研修の充実		
	「魅力ある学校づくり」に向けた組織的共通実践	○校内研究体制の整備とカリキュラムマネジメントの推進	<児童生徒質問> ・学校に行くのは楽しいと思う。 <学校質問> ・学校評価を含む、児童生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立している。
		○校種間連携と管内組織体制の充実	・自校の「目指す児童生徒像」実現に向け、校内研修を充実させている。 ・習得・活用及び探究の学習過程を意識し、児童生徒一人一人の自立を見通した学習指導の改善及び工夫をしている。 ・学年会・教科会について計画的に実施し、着実に授業改善が進んでいる。 ・自校で育成したい「児童生徒の資質・能力」「目指す子供の姿」が明確にされ、校内研究等で全職員で共有し、ほとんどの教師が意識して授業改善を実施している。
		○地域等との互恵的関係と社会に開かれた教育課程の推進	・全国学力・学習状況調査の結果を「学びのたしかめ」や「沖縄県到達度調査」の結果と併せて分析し、校内研修の実施計画を立案し、整備するなど、組織的、継続的な研修を行い、授業改善や個別支援につなげている。 ・幼児期の教育を通して育まれた資質・能力を踏まえた教育活動の実施について、全職員の共通理解を図っている。 ・教育課程の趣旨について、家庭や地域と共有を図る取組を行っている。
□ 県版児童生徒・学校質問各質問項目「県平均以上」			
教職員の資質・能力の向上		○若手教員育成等系統的な指定研修の推進 ○授業改善に向けた教科研究会の推進 ○教職員の使命と責務を高める取組の推進	□事後アンケート（各種研修会終了後）